

奈良県立医科大学 学報

April
2008

vol.24

CONTENTS

| | |
|---|-------|
| 吉岡学長就任挨拶 | 1 |
| 吉田学長退任挨拶 | 2 |
| 卒業式・入学式の概況／学長賞・厳糧賞・華糧賞 | 3 |
| 卒業式訓示 | 4 |
| 入学式式辞 | 5 |
| 就任挨拶／公開講座開催報告 | 6~8 |
| 退任挨拶／組織改正 | 9 |
| 平成20年度予算 | 10~11 |
| 医学教育シリーズ15 | 12 |
| 研究紹介(分子病理学 笹平助教) | 13 |
| 研究室配属の感想 | 14 |
| 平成20年度入試結果／学位授与の状況 | 15 |
| 病棟紹介(A6北・A4南・B4) | 16 |
| 看護部から／附属病院から | 17 |
| チェンマイ大学との学術交流／中島佐一賞決定 | 18 |
| レポート | 19 |
| 携帯電話使用エリア／ナースのリフレッシュルーム開設／看護学科卒業研究発表会／下ツ道 | 20 |



平成20年度 入学式

就任挨拶

学長 吉岡 章

本学は、独法化後1年を経て、今大きく変容を遂げようとしています。しかし、公立大学法人としての基盤整備が未だ十分には整ってはいません。正に、これからが正念場となります。こんな重大な時期に学長・理事長に就任することになり、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

私は昭和39年(1964年)の入学以来、44年にわたり、学生として、医師・教官として、本学の歴史と共に歩んで参りました。この間、本学の光と陰、高揚と沈滞を肌で感じながら「全ては子ども達(小児科)のために、奈良医大のために」を行動規範として参りました。

今後の本学の運営に最も大切なことは、全ての教職員、学生諸君の一人一人の自覚と協力であります。私は学内外の多くの方々の声に、真摯に耳を傾け、意見を交換し、十分に理解し合い、コンセンサスを目指して参ります。そして、一旦決定したことは責任者として果敢に実行に移し、皆様と共に実施、完成させて行きます。

私は、本学の管理、運営にあたり、「夢」、「喜び」そして「やりがい」の3Yをキーワードに、常に志を高く持ち、県民、国民の負託に応えうる新しい奈良県立医科大学の発展を目指して参ります。

「夢」：本学で学び働く学生と教職員には豊かな人間性と高い倫理観、そして、高度な知識と実践能力を備えた医療人・医学研究者を目指し、世界に羽ばたくという大きな「夢」があります。

「喜び」：私達には、医学・医療のプロフェッショナルになるという大きな「喜び」があります。患者さんの平癒と御家族の安らぎに貢献できるという「喜び」や、研究の成果が評価され、地域と世界の医学・医療に貢献できるという「喜び」が待っています。

「やりがい」：私達が夢を求め、喜びを体感し、患者さんの安心に貢献できることは、人生における最大・最高の「やりがい」となります。私は本学に学び、働く全ての人たちが、「学びがい」、「働きがい」のある「大学・病院環境」を整備致します。皆様の御支援と御協力を切にお願い申し上げます。

退任挨拶

奈良県立医科大学のさらなる発展を願って

前学長 吉田 修

本学での2001年10月からの6年半は、私の人生で、最も充実した、やり甲斐のある、楽しい歳月でした。教授会の方々はもとより、すべての教職員また同窓会や本学関連の皆様のご理解とご協力のお陰と感謝の気持ちでいっぱいです。

着任当時は、あの大台風の直後であり、まずは四海波静になるのを待たねばと思いました。しかし、熟考の上で重要なことから改革を始めました。

大学は「人」です。端的に言えば、いかに優れた教授を選ぶかで大学は決まります。それにはひたすら「本学の現在と将来のために誰がベストか」を考えて選ぶべきで、個人的、感情的、非論理的要素はすべて排除して掛からねばなりません。いかに選び方を変えても、この基本理念がなければ優れた人は選べません。まだ充分とは言えませんが、いくぶんかは改善されたと思います。

大学は「知の継承、知の創造、知の活用：教育と研究と地域貢献」で成り立っています。教育がなければ大学ではありません。目を輝かせて入学してきた優秀な学生達が一年経たぬうちに目の輝きが失せることに気づいたのは学長就任後すぐでした。彼らがいつまでも「目の輝き」を失うことのないようにするには何をなすべきか？私は学長として何ができるか？思い悩みました。教育開発センターを発足させ専任教授をおいたのもその対策の一つです。最も難しく、最も重要な課題は教養教育です。医科大学における教養教育は医師や看護師になるための専門教育に必要な基礎となるものと、人格形成、人間形成の上に必須のものがあります。後者について、われわれはもっともっと議論を重ね、種々の改革が必要です。

本学はもとより、一般に我が国の看護教育についても大変危惧していることがあります。看護の独自性、主体性を強調するあまりに、チーム医療を実践するための基本的な姿勢がなおざりになってはいないでしょうか？このままで行くと、医療に不可欠の医師と看護師との連携がさらに弱くなってしまいます。何をなすべきか？一言でいえば、150年前のナイチンゲールの看護理念、原点に戻るべきです。

次に研究についてです。研究なくして医学・医療は進みません。臨床に於いても「Critical thinking & Research」は不可欠です。医師がこの資質を具備すべきことはグローバル・スタンダードです。

さらに、研究はドームの屋根のようなものではなくゴシック建築の尖塔のようなものを目指さねばなりません。本学に先端医学研究機構が発足し、生命システム医科学が開設されたのも、研究のあるべき姿を願った多くの人々の熱い思いによるものです。今後、本学から独創性の高い研究が、次々に世界に向けて発信されることを期待します。

地域貢献は診療のみではありませんが、診療に望むことは、「病気を診ずして、病人を診よ（高木兼寛）」です。医療が科学に近づきすぎたことの反省です。これは世界的な反省で、「The art of medicine.を取り戻せ」と言われております。崩壊寸前といわれている医療を救うために、われわれ医療人はできることからしなければならぬと思います。

最後に願うことは、大学の運営に関わる事務職員の人々は「大学マネジメント」についてもっと勉強して下さいということです。法人化後一年の経験で、われわれはその長所、短所について可成り学びました。そして、改善を必要とする点にも気づきました。本学の発展は「法人化の利点を大学の運営に生かす」ことであり、優れた「大学マネジメント」であることを再認識して頂きたいと思います。

本学のますますの発展と皆様のご健勝、ご活躍を心から祈り退任のご挨拶といたします。



卒業式・入学式

医学部卒業式(平成20年3月18日)

医学科85名、看護学科84名が卒業しました。
また、学長賞等が次の方々に贈られました。

- ・学長賞 医学科 井上 和也さん
看護学科 白石 有紀さん

学長賞は医学科6年間、看護学科4年間の課程で最も優秀な成績を修めた学生を表彰するもので、医学科は今回が第2回目、看護学科は第1回目です。

- ・医学科同窓会^{いつかし}厳樞賞 田中 寿典さん、江浦 信之さん
- ・看護学科同窓会^{ほなが}華樞賞 戒能 有紀さん、井上 知美さん、稲瀬 恵里花さん、森野 貴輝さん

厳樞賞(医学科)、華樞賞(看護学科)は、クラスのリーダーとして活躍した学生(ヒーローオブザクラス)、クラブ活動で本学の名声を高めた学生、社会で賞賛すべき活動を行った学生を同窓会が表彰するもので、医学科は今回が第2回目、看護学科は第1回目です。

医学部入学式(平成20年4月9日)

医学科100名、看護学科80名、看護学科3年次編入学13名が入学しました。



奈良県立医科大学学長賞を受賞させて頂いて 井上 和也

このたびは栄えある学長賞を賜り、大変光栄です。これも偏にご指導を賜りました諸先生方、実習の機会を与えて頂いた患者の皆様方、支えてくれた両親家族や友人達のお蔭です。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

記憶力も衰えました三十八歳の私が幸運にも学長賞を賜りましたのは、講義でポイントを丁寧に教えて頂いたからだと思えます。初歩的な質問にも丁寧にお答え頂き、理解に大変助けとなりました。教科書等やネットで知識の裾野を広げ、実習でご指導頂きました諸先生方と協力して頂きました患者の皆様方の助けをお借りして知識を自分なりに整理統合して、ようやく自らのものとする事ができたと思えます。友人達との議論も理解を深めるのに大いに役立ちました。

今日の私があるのは支え導いて頂いた様々な方のお蔭であることを深く胸に刻んで、このご恩に報いることのできる医師を目指して日々精進する所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



奈良県立医科大学医学部看護学科第一回学長賞受賞にあたって 白石 有紀

この度は、学長賞という大変名誉ある賞を頂き、驚きと喜び、そして感謝の気持ちでいっぱいです。この場をお借りして、吉田学長を始め、四年間手厚くご指導して下さいました諸先生方、共に困難を乗り越え支えあった友人、そして四年間の大学生活をどんな時も支え、見守り続けてくれた家族に心より感謝致します。

私の親は、いつも「今しかできない事、今自分にできることを精一杯やりなさい。」と話していました。この言葉を励みに四年前、自分の目標をもって入学し、何度もくじけそうになりながら、しかし、そうした時にはいつも周囲の温かい支援を受け、今日まで精一杯学び、積極的に多くの経験を積む事ができました。こうして一回りも二回りも成長できた事は、大学生活の宝物であり、その結果、今回の受賞に繋がったのかも知れないと感じています。

看護学科の第一回受賞者として、これからの後輩達にとってよき先輩であり続けられるよう、今後も精一杯頑張っていきたいと思えます。ありがとうございました。



卒業生諸君、本日はまことにめでとう。こころからお祝い申し上げます。

諸君の卒業にあたり、私は三つのことを申したいと思いますが、この三つの事柄は一つの理念で貫かれていることを賢明な諸君ならば理解してくれるものと思います。

まずはじめに申したいことは、「頭で犯す過ちや間違いは許されるとしても、心で犯す過ちは許されない」ということでもあります。私は毎年卒業生諸君に「医師として、看護師として諸君の人生において心の過ちを犯さないことを誓ってほしい」といってきました。われわれの人生に過ちや、間違いが無いにこしたことはありません。特に医療においては過ちをしないよう、間違いをしないよう、全身全霊を傾けての集中が必要です。それでも神ならぬ身の人間は過ちを犯します、間違いをすることも避けられません。しかし、私がここで強調したいのは、それらは決して心で犯す過ち、間違いであってはならないということです。心とは何か？ それは諸君一人一人が、これまでの人生を通じて培ってきた全人格であり、真理への畏敬、生命への畏敬であり、プラトンのいう「単に生きるだけでなく、より良く生きるための」精神的基盤となっているものを指します。

どうか諸君、諸君は本日この日に、「私は医師として、医療者として生涯にわたって心の過ちを犯しません」と誓っていただきたい。

第二に申したいことは、医療人としての信条です。私の敬愛して止まないウィリアム・オスラー教授は自分の生活信条の一つは「力の及ぶ限り、同僚や自分がケアする患者に黄金律を実行することである」と述べております。黄金律とは、新約聖書のマタイ伝にある「何事でも、人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりせよ」という言葉であります。同じことは論語にも「恕」という言葉で述べられています。「子貢問うて曰く、一言にして以て終身これを行うべきものありや。子曰く、それは恕か。己の欲せざる所、人に施す事なかれ」。この両者をオスラーは同一のもののみならずしておりますが、私は同じとは考えておりません。黄金律Golden ruleにたいし、論語で述べられている恕の精神を Silver rule と呼ばれるごとく、「あなたが人からして欲しくないことを人にしてはなりません」という東洋的思想が反映されています。これは医療人が守るべき信条として基本となる箴言であります。医療人が具備すべき「思い遣り compassion」そして「凜とした優しさ」に通ずるものであります。医師にしても看護師にしてもこの両者を自己の内に統合して形作ることが必要であります。

3番目に申したいことは医療人としての矜持を持ち続けなさいということです。「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職業を選んだ以上もはや医師は自分自身のものではなく、病める人のものである。もしそれを好まぬならば、他の職業を選ぶがよい」これは19世紀の中頃、長崎で医学をおしえたポンペの言葉です。ポンペのみならず多くの医の先達は、「医は商いではなく天職である」といいました。「医業はビジネス（商い）ではなくて天職である。それは常に人類同胞に対する自己犠牲、献身、愛そして優しさを医師に求めている。ひとたび医師が、単なるビジネスのレベルに落ちると、感化力は消え失せてしまい、人生の真実の光はぼやけてしまう。医師はつまらない世間の嫉妬などよりも遙かに高い所に自身を高揚できる人類愛にみちた伝導的精神のもとに働かねばならない」これもオスラーの言葉です。

ここでは医師について申しておりますが、看護職者も助産師についても本質的にはまったく同様であります。

医師・看護職者の報酬は、患者さんへの献身にたいする対価であります。利潤追求型のものではありません。今日の医療界の危機的状況は経済最優先、医療界への市場原理の導入がその要因の大きな部分を占めているとは思いますが、社会の医師不信、医療不信の原因の一端は、一部の医療者の倫理観の低さにあることは否定できません。高い倫理観にもとづく医療者としての社会的使命を諸君は生涯にわたり自覚し、それぞれの道を歩んで欲しいとこころから希望します。諸君は唯物的な豊かさをもとめるのではなく、心の豊かさを追い求めてください。

今日我が国の医療は大変混乱しております。医師不足、看護師不足、救急医療の荒廃など毎日のごとく報道されております。今日、日本の医療は崩壊の危機に瀕しているといわれます。その様なことにならないよう、われわれは出来ることから解決して行かねばなりません。そのような時に、「医は天職」などという「現実に疎い理想主義者」といわれるかもしれません。

しかし諸君。諸君はただ医師は経済的に安定しているからとか世の尊敬を受けやすいからとかで、また高校の成績や偏差値だけで医療者になる道を選んだのですか？ 諸君が医師になり、看護師になるのはその様なことだけでは決してない、諸君には理想があり夢があり希望がある、医師たるもの、看護師たるものの理念があるはずで。私は諸君にいいたい。諸君は「理想をもって現実に向かい、現実の中に理想を問う姿勢」を持ち続けねばならないと。諸君は直面する現実の解決にのみ重点をおく、単なる現実主義者realistでなく、理想をもって現実に向かい、現実の中に理想を問う理想主義的現実主義者でなくてはなりません。真の理想主義的現実主義者は、いかなる困難な事態に遭遇しようとも決して諦めず、何処までも耐え、どこまでも忍び、おのおのの理念を貫きます。

諸君の未来には無限の可能性が 있습니다。生涯に亘って自らを磨き、研鑽を積み、力強く胸をはって諸君の人生を歩むよう心から祈り私の訓示といたします。



新しく医学科・看護学科に入学した諸君、おめでとうございます。大学を代表して心からの祝福のメッセージを贈ります。

本学は昭和20年、奈良県立医学専門学校として開学以来、63年の歴史を持っています。この間、幾度かの浮沈を経験しつつも、多くの医師・医学者・看護師を世に輩出して参りました。

本学は長く、医学部医学科のみの単科医科大学として発展して参りましたが、平成16年には4年制の看護学科を新設し、1学部2学科の医科大学としてさらに発展を続けています。また、本学は昨年、公立大学法人奈良県立医科大学となりました。法人化されたということは、県立としての歴史と伝統を継承しつつ、法人としての経営手法を新しく導入し、公と私を融合した新しい大学形態として再出発したということになります。このように奈良県立医科大学は、今、大きく変容を遂げようとしています。しかしながら、公立大学法人としての基盤整備は未だ十分には整っていません。正に、これからが正念場となります。

奈良医大はわが国の歴史発祥の地、橿原市に設立されました。2年後の2010年は奈良平城京遷都1300年にあたりますが、平城京のその前の都、藤原京は本学の東1kmにありまして、大和朝廷が日本国として全国に号令を発した、大和・明日香の地も、橿原市の南に隣接しています。代々の天皇陵や数々の古墳がこの大学の周辺にはたくさん存在します。このように本学は約1500年前の首都に位置しているのです。

一方、今日、新しい医学の発展はとどまるところを知りません。移植医療や再生医療をはじめ、病的あるいは老化した臓器、組織、細胞が新しい知識と技術によって移植または再生される時代がすでに到来しています。生命の誕生やヒトの「生」に関する機序や機能の解析は、細胞、蛋白、遺伝子レベルで行われ、どんどん新しい概念が確立され、知識が蓄積されています。この新しい時代に、医学生・看護学生として学ぶ諸君は、まず、この膨大な知識を理解し、整理して、頭に蓄えなければなりません。私が学生だった40年前とは、量的にも質的にも比べようもないほど、その必要量は増えています。闇雲に覚える「詰め込み式」あるいは「付け焼刃」の勉強はとて無理、無意味です。理屈なくどうしても覚えねばならないものはいくらではありますが、多くはその理屈や機序を理解し、自分で整理し直し、系統立てて記憶して行くことが大切です。

しかし、将来の医療人たる諸君に求められるのは、単に知識の蓄積のみではありません。豊富な経験であり、人との良好な関係の構築、即ち、コミュニケーションスキルの習得であり、人を思いやる心の育みであります。

経験には、医学生・看護学生としての基本的な技術の習得や体験はもちろん、社会人としての幅広い経験の積み重ねも求められます。新聞や書物、インターネット等を通して社会の事象に明るくなり、家族や友人達とのコミュニケーションを通じて、自らの考えや見識を研いて下さい。年代や職種、階層にこだわることなく、周囲のできるだけ多くの人達と言葉がけをし、付き合ってください。周囲の人達とわだかまりなく話すこと、そして聞くことが出来てこそ、将来の医療人としての人格が形成されて行くのです。また、本を読むことはそれ自体大きな楽しみであり、経験となりますが、学生時代の読書は将来の高い人格形成に促進的に作用します。明日と言わず、今日から読書と、良好なコミュニケーションを心がけて下さい。

クラブ活動等を通しての体力づくりや、先輩・後輩・同僚との人間関係のあり方も勉強して下さい。さらに、医療従事者になる者として病を持つ患者さんやその家族に対して、思いやることの出来る心を育てて下さい。

以上、諸君の記念すべき大学生活第一日目に「豊かな知識を蓄積する」こと、社会人として「たくさんの方を経験する」こと、そして、人との良好な「コミュニケーションを構築する」こと、この三つの重要性を強調しました。

最後に、本学はこの4月1日から、全学・全敷地を全面禁煙としました。諸君も喫煙という悪しき習慣になじむことのないよう心がけて下さい。また、諸君は今、宣誓書に署名しました。これは諸君の医学生・看護学生としての本学での勉学と生活について、心を新たに、約束したものです。このことは決して軽いものではありません。十分に心して充実した6年間、4年間を過ごして下さい。



就任あいさつ



医学部長就任挨拶 喜多 英二

奈良医大の使命は研究・教育・地域貢献(吉田前学長、2008年念頭のご挨拶より)であり、このことを念頭に昨年四月の法人化後、本学は新たな着実な歩みを続けてまいりました。しかし、この1年で浮き彫りにされてきた問題点も少なからず存在し、中期目標と併せ、本学が独立行政法人としての真価を発揮するためには、諸問題の克服と目標達成に向けての全学的取り組みが求められております。中でも、真に医師・看護師に適した学生の獲得、より多くの医学科・看護学科卒業生の大学への定着、大学院の人的充実、教職員の働く喜び・充実感の達成、大型競争的外部資金の獲得、先端研を始めとして施設の拡充・補修等が、当面の課題と言えます。

これらの諸問題の解決・中期目標達成に向けて、更には新しい本学の魅力を創生するために、全学的取り組みが求められております。このためには、学内構成員及び各部署で個々に感じておられる不公平感の是正と、大学構成員が問題点を共有し、お互いの意見相違を認識し、相互理解を深めることが肝要であります。更に、各自が現況下でどの様に大学に貢献すべきか問い、実践することが求められてます。各自がこの様な意識を持つことで、全学協力の基、本学の充実化・魅力創生が可能になると信じております。

医学部長として、本学の充実的發展・魅力創生に向け、全力投球の覚悟であります。皆様のご理解・ご指導・ご協力を心からお願いする次第であります。



病院長に再任されて 榊 壽右

昨年の4月に病院長に就任させていただいておりますが、皆様方のご支援に依りまして、さらに2年間、今度は専任の病院長を務めさせていただくことになりました。附属病院には山のように問題がありますが、その中で最大のものは看護師不足です。本来なら多くの看護師さんが集まってきてくれて、大学病院として7:1運用であるべきところですが、残念なことに病床数を減らした上で、10:1にて運用しています。しかもそれもままならず、4月からA病棟6階南ならびに7階南を減らさなければならなくなってしまいました。これによって20年度の赤字は100%確実であり、大学収入の80%が病院収入に支えられていることを考えれば、大学のすべての人がこの問題に関心を持っていただく事に済むはずはありません。

本年4月から大学の法人内の人事も意向調査や選挙によって大きく変わりました。事務の再編も行われました。その中身は、看護師不足、医師の不足等とも併せて何が本当に良かったのか?あるいは良いのかわかりかねる部分もあります。まさに“**真は誠に似、偽は以て真に似たり**”といったところでしょうか。本学が本当に良くなることを望んでいます。



附属図書館長就任挨拶 平尾 佳彦

ICTの発展・普及により情報の電子化が進み、図書館機能が大きく変貌してきています。インターネットを通じて、いつでも、誰でも、どこからでもコンピュータを通じて電子ジャーナルから最新科学情報を入手することが出来る時代になりました。電子ジャーナル化により図書館は空間的な制限から開放されますが、その維持・運営に図書館予算の大半が占められるようになり、財源確保が大きな課題になっています。図書館は科学情報発信の重要な基盤であるとともに、情報を蓄積し系統だった知識として形成させる役割も重要と考えています。このためには適切な文献探索式や情報整理のデータベースの提供をはじめ有効利用のサービスに努めていく所存です。また、本年度から本学発の知的財産を蓄積する機関リポジトリが発足します。学生を含め多くの本学職員の方々に利用していただけるように、図書館職員と共に考えてみたいと思います。ご支援、ご協力をお願い致します。

ICT : Information and Communication Technology



研究部長就任挨拶 大崎 茂芳

この度、研究部長として勤めさせていただくことになりました。研究部長の職責は、大学院、先端研および研究全般に関することです。大学の研究者が夢を持って研究できるためには、中長期的な視野に立つての研究基盤づくりが不可欠となります。そのために、大学院への入学に関するしくみづくりとともに先端研の充実を目指すことや、若手研究者に研究の面白さを少しでも浸透させて意欲アップを図り、奈良医大に特徴的で世界に誇れる独創的研究を推進することが望まれています。

世の中の組織にとって3M (man:人材, money:資金, management:経営) という重要な言葉があります。法人化した今、私はこれらの観点に基づいて、研究者の独創的な発想を重要視し、安心して研究に打ち込める研究環境のしくみづくりに取り組んでいきたいと考えていますので、教職員や研究者の方々のお力添えをよろしくお願いいたします。





看護学科長就任挨拶 飯田 順三

本年度より新しく設けられた看護学科長に就任致しました。私は精神科医であり看護学の専門家ではありません。にもかかわらず看護学科長を勤めることになった理由の一つは医学科、及び附属病院との交流を深め、それを通して本学看護学科の重要性を医学科の先生方や事務職の方に認識していただくことにあります。幸い私は看護短期大学時代から8年間看護学科に在籍し看護学科のすばらしい部分も問題点も理解してきました。現在看護系大学は毎年10校以上が新設されており、優秀な学生と優秀な教員を獲得するのに大変な競争時代に突入しています。また平成21年度より大規模なカリキュラムの改正が行われ、看護実践能力の育成が重要な課題となっています。このためにも附属病院での臨地実習のさらなる充実が要求され、教育環境の整備が急がれます。

本学看護学科学生が誇りを持ち、安心して本学附属病院に就職できるように看護学科におけるハード、ソフトの両面における整備が必要であり、本学全職員の皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



一般教育部長就任挨拶 大西 武雄

本学が法人化されて一年を迎え、その間さまざまなシステムの改善がなされてきた。その決定方法も確かにそれ以前と違ってきている。しかしながら、大学の本来の使命は変わっているとは思われない。医科大学の使命の教育、研究、臨床にますます高い質が求められる時代となってきている。

今回一般教育部長に選任されました。一般教育部長は平成10年から4年間務めたことがありました。カリキュラムも学生の気質も随分と当時とは変わってきた。教育開発センターができてから、一般、専門教育もそれぞれに本学の特徴を生かした改革がなされてきた。外部評価でも高く評価された部分も数多い。しかし、本年からスタートするコンソーシアムもまだ手探りの状態である。一般教育で行われている医学特別講義に対する評価は学生それぞれに異なっている。学生の感動もさまざまであってもよいが、教育する側からはすべての学生が感動し

てほしい。プリセプターもまだ軌道にのっていない。システムとして軌道にのせ成功に導き、長年続けることが歴史となり、学生が充実した人生を歩む手助けとなってほしい。

今、全国の各大学はそれぞれ特徴を持った大学づくりをめざしている。オリジナリティーをいかにだすか、が問われている。高い教養と深い探求心から生まれることは当然のことであり、たゆまない努力を培っていく自分でありたい。研究室に出入りする院生・学生や一般教育の講義・実習をつうじて学生自身が自己の成長を実感できる、質の高い全人的教育をめざした教育・研究環境をこつこつとつくりあげていきたい。



基礎教育部長就任挨拶 羽竹 勝彦

このたび4月1日付けで基礎教育部長に就任しました法医学教室の羽竹勝彦です。その責務の重さをひしひしと感じています。昨今、めまぐるしく医学教育のあり方が変遷し、暗中模索の状態にあるような気がします。本学でも6年間の一貫教育や一般、基礎、臨床の枠組みをこえたカリキュラムなど様々な取り組みがなされています。そのような中でいかに基礎教育の充実をはかり、また医学教育における位置づけを考えながら、基礎医学教育協議会の諸先生方の意見を集約し、反映できるよう努力したいと思えます。皆様のご指導、ご鞭撻をお願いいたします。



臨床教育部長就任挨拶 古家 仁

4月から臨床教育部長に就任いたしました。臨床教育部長は平尾教授が長年務められ、森田教授とともに多くの改革を実行されて参りました。その結果、現在の臨床教育の場ではだいたいの形は整ってきております。しかし、臨床教育は診療と直結した中で行わなければならない、また初期、後期も含め卒業研修も行わなければならないという現実があり、教育体制にはまだ問題があると思われれます。また、学生が国家試験受験に対して十分勉強できる体制を供給する事も喫緊の課題で、本学に入学し、勉強し、卒業してよかった、と思えるハード面ソフト面での支援が重要と考えております。

皆様方のご指導、ご支援をお願いする次第です。



看護教育部長就任挨拶 脇田 満里子

私が看護短期大学部専攻科の開設準備室に赴任して10年、また助産師として7年間の臨床経験の後、看護教員となって今年で30年となります。この人生の節目に重責な職に就かせて頂いたことに身の引き締まる思いです。

振り返りますと平成16年度に看護短期大学部から医学部看護学科となり、その第1期生がこの春卒業しました。また19年度からの公立大学法人化に向けて、中期計画の検討部会のメンバーに加えていただきました。看護学科においても以前と異なった多くの課題が課せられています。また逆に多くの可能性も秘めていることも事実です。

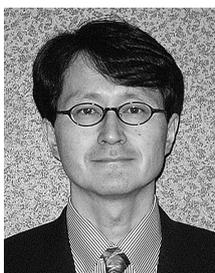
看護教育において高度医療がすすむ中、社会のニーズが多様化、複雑化する中で今後のあるべき姿を常に明確にしていくことが求められています。

教育の評価はその学生が卒業してから10年後に可能と言われていました。

従って長期的な目標も視野に入れた教育が実践できるよう努力したいと考えています。皆様方のご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願い致します。



教授就任挨拶



生命システム医科学分野 循環器システム医科学 教授 中川 修（なかがわ おさむ）

今回、先端医学研究機構生命システム医科学分野の第2研究グループ担当に選任いただき、本年2月に着任いたしました。今後皆様のご指導とご支援を賜りたく、ご挨拶申し上げます。

私は、京都大学医学部を卒業後、同第二内科・臨床病態医科学講座（井村裕夫前教授・中尾一和教授）、同薬理学講座（成宮周教授）、熊本大学循環器内科講座（泰江弘文前教授・小川久雄教授）にて臨床研修と医学研究のトレーニングを受けました。その後、1997年にテキサス大学Southwestern Medical Centerに異動し、Fellow・Instructor・Assistant Professorとして基礎研究に従事いたしました。10年にわたる米国における研究生活においては、主に転写調節を中心とする細胞内シグナル伝達機構の研究を行い、心血管系の発生・成熟機能もしくは骨格筋の成長に重要な働きを有する新規遺伝子を発見することができました。今後も臨床医学講座で学ん

だ知識と米国での基礎研究の経験を大切にし、疾患メカニズムの解明を目指して研究を続ける所存です。

転写調節はあらゆる生命現象や病態において重要な意義を有しており、できるだけ多くの講座の先生に共同研究をお願いできれば幸甚に存じます。ご指導の程よろしくお願い申し上げます。



医学部看護学科臨床病態医学 教授 濱田 薫（はまだ かおる）

本年4月から医学部看護学科臨床病態医学の担当に就任いたしました。ご指導をいただいた恩師、先輩、友人、接することで多くのことを学ばせていただいている若い先生方や学内各領域の皆様へ感謝申し上げます。

医療界の内外の環境は大きな変動の中にあり、私達もまた翻弄されているという感もあります。しかし目前のすべきことに対する取り組みに猶予はありません。より良い方向への改革は、魅力的で派手な推進力と同時に現場での努力の集積で成り立ちます。レベルの高い目標を意識して、着実に実践するという姿勢を保つことが肝要であると考えています。学生教育に力を傾注し、多くの先生方、各部門の方々と連携し、看護学科の発展そして奈良県立医科大学の発展に少しでも貢献したいと考えています。私にとりまして新しい領域への取り組みでもあります。今後ともご指導、ご高配のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

看護部長（附属病院副院長）就任挨拶



看護における大学教育と臨床実践とのよりよい連携をめざして 佐伯 恵子

看護学科の基礎教育の場から、臨床現場である附属病院の看護部長を引き受けることになった理由には、最近体験した2つのことが関係しております。ひとつは、「困っている人（こと）に、持てる力を注ぐことが看護の原点である」と再認識したこと、「危機的状況に陥った86歳の母親のいのちを救ったのは、高度な医療現場のチームワークであったこと」です。要請されている課題のひとつは、「7対1算定病院」をめざしての看護師確保対策であると理解しておりますが、これが実現できれば、「一人一人の患者のケアにあたる時間が増える」など、患者ケアに心痛めている現場の看護師をはじめとする医療者のサポートになると確信しています。奈良医大の伝統はおろか、現状も無知に等しい、新人と同様ですので、病院長をはじめとする多職種の方々の協力を得ながら、進めていこうと思っております。どうか、暖かい支援をいただけますことを、お願い申し上げます。

公開講座「くらしと医学」を開催しました

（総務課）



平成19年度後期公開講座を、2月16日（土）に文化会館国際ホールにおいて開催いたしました。

平成6年度から始まった公開講座も、今回で20回目の開催となり、今回の会場である文化会館での開催も14回目となりました。

当日は、約750名と多数の聴講者を得て3つの講座が開催されました。

まず、座長の周産期医療センター高橋教授の紹介により、眼科学原教授から「加齢とともに起こる眼の病気－白内障・加齢性黄斑変性・緑内障－」と題して、続いて、第二解剖学和中教授の紹介により、生命システム医科学坪井教授から「においの不思議－風邪をひくとなぜにおいを感じなくなるのか？－」と題して、最後に泌尿器科学平尾教授の紹介により附属病院院長、脳神経外科学榑教授から「日本の脳神経外科の発展と共に歩んだわたしの人生」と題して講義が行われ、それぞれ活発な質疑応答がなされました。

今年度は、9月6日（土）橿原文化会館、平成21年2月21日（土）奈良県文化会館において開催する予定ですので、ぜひご聴講くださるようお願いいたします。



退任あいさつ

退任にあたって

副院長 看護部長 小林 雅子



本年3月31日付をもって退職することになりました。昭和44年、奈良医大看護部に奉職して以来、38年間（うち本学附属病院で32年間）看護師として勤務させていただきました。特に昨年4月看護部長、5月に副院長を拝命以後、独立法人化による変化への対応、看護師確保対策、病棟再編成など、様々な出来事があり、多くの皆様方にご支援、ご協力をいただきました。心から感謝申し上げますとともに今後も本学のご発展をお祈り申し上げます。

本当にありがとうございました。

退任にあたって **私の歩んだ道**

中央臨床検査部 技師長 丹羽 欣正



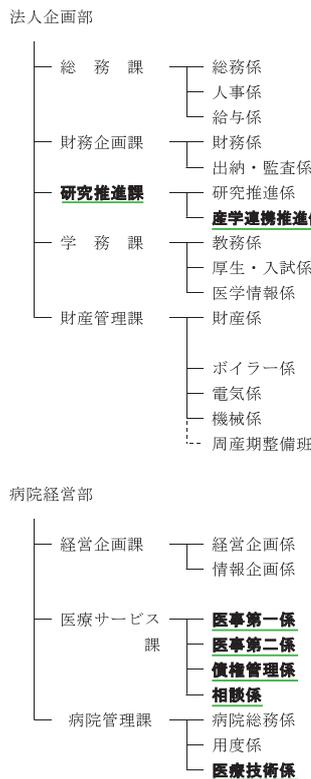
奈良県に奉職したのが昭和43年4月、桜花爛漫（大学周辺の桜は、現在よりもっと多かったように思います）の奈良県立医科大学に着任し、以来40年の長きに渡り本学とともに歩んで参りました。当時の臨床検査は殆どが用手法で、染色法等検査の開発部分が山積しておりました。業務外でのこれらの仕事が、楽しくてたまらなかった事が昨日のことに思い出されます。奈良医大法もいくつか開発し、キット化されて市販しているものもあります。私は退任しても、これらが現場で活躍し続けていると考えると楽しくなります。中央臨床検査部も今後更に医療現場で活躍し続けます。皆様のご支援をお願いいたします。

平成20年度 組織改正について

(総務課)

事務組織

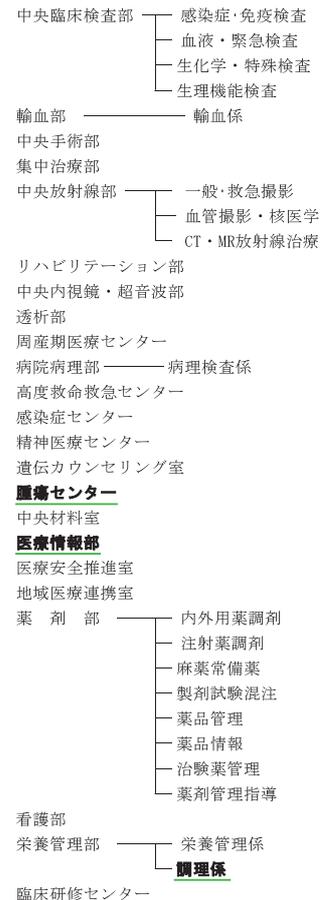
課内室を再編
(研究推進課として財務企画課より独立・情報企画室を廃止し、経営企画課に併合)



※ 線部が改正部分

附属病院 中央部門組織

附属病院中央診療施設 名称の変更 (腫瘍センター・医療情報部)



※ 線部が改正部分



平成20年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算

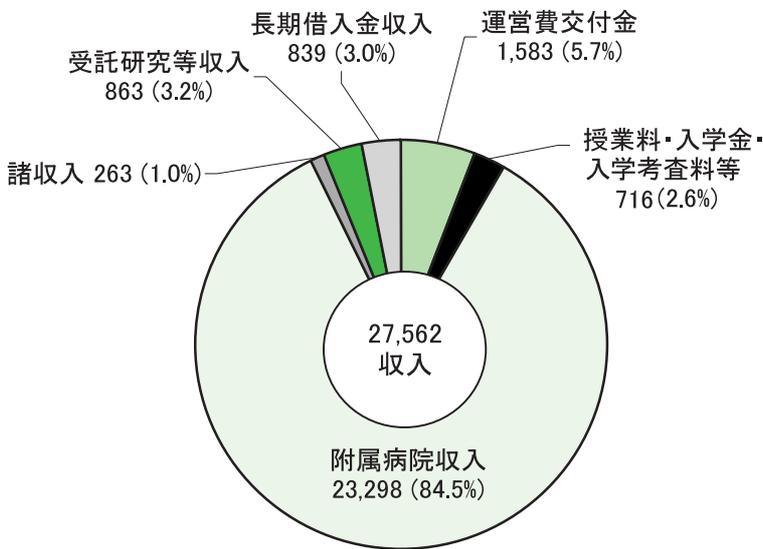
公立大学法人として2年目を迎え、法人化後始めて自主的・自律的な経営を目指した予算編成を行いました。

総額275億6,148万円となり、前年の予算に比べて7億5,048万円の増加となりました。

特に「医師・看護師の確保」と「職員の資質向上、経営参画意識の醸成」を主要な課題とした新規事業や「教育研究の充実」「患者サービスの向上」「病院運営の合理化、経営改善の推進」等を進めていくための事業に重点配分した予算編成です。予算執行にあたっては、それぞれの分野の職員のみなさんに、ご協力・ご尽力いただきますようよろしくお願いいたします。

平成20年度予算の構成比

予算総額：27,561,481千円（対前年比750,481千円、2.8%増）



【収入】

運営費交付金

法人の効率的で安定的な運営を確保するため、大学運営経費、政策医療に係る経費、起債の元利償還金、退職手当のうち県が負担すべき費用について、県から交付されるもの

授業料・入学金・入学考査料等

大学、大学院授業料及び専修生・研究生受講料など

附属病院収入

診療報酬、診断書手数料など

諸収入

駐車場収入、国庫補助金など

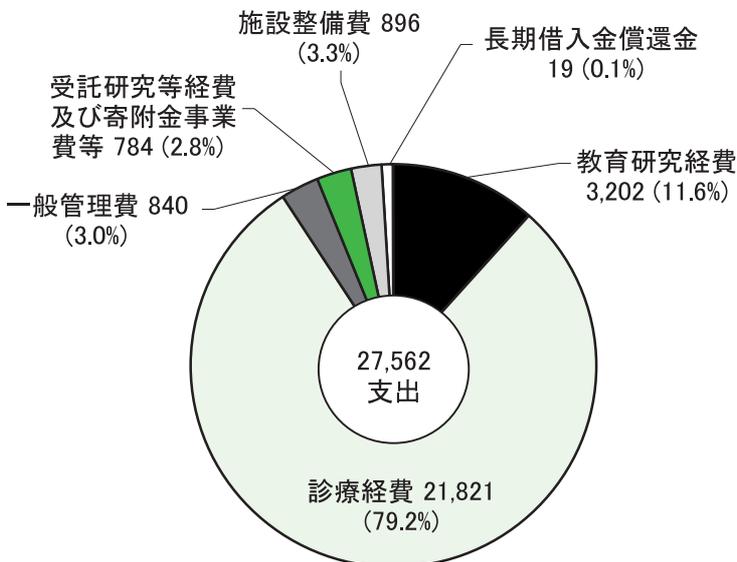
受託研究等収入

外部からの資金

長期借入金収入

総合周産期母子医療センターの整備及び医療機器の整備に関する借入金

(単位：百万円)



【支出】

教育研究経費

学生への教育関係費、教員の研究関係費、図書館の経費及び教育研究にかかる人件費など

診療経費

医薬材料費、医事委託、医療用機器保守経費及び診療にかかる人件費など

一般管理費

火災保険、銀行手数料など法人運営に関する経費（人件費を含む）

施設整備費

総合周産期母子医療センター整備、医療用備品整備及び大学・病院施設改修など

受託研究経費及び寄附金事業

住居医学講座、寄附金・受託収入及び科学研究費等による研究事業経費



平成20年度予算の主要事業・新規事業

医師・看護師の確保

- 医師の処遇改善 150,000千円(運営費補助金で措置)
医師の給料の調整額等を改善
- 看護師の処遇改善 97,727千円
夜勤手当を改善(1回当たり3,300円→5,000円)
- 看護師研修を充実 11,098千円(経費の一部を運営費補助金で措置)
先進的な病院での派遣研修のほか、認定看護師資格取得、看護協会主催の研修参加に要する経費を助成など
- 看護師等の確保対策の充実 9,307千円
看護師確保プロジェクトを稼働させるほか、看護師確保に向けた取組みを充実

職員の資質向上 経営参画意識の醸成

- SD(Staff Development)研修事業の実施 5,297千円
先進的な病院での派遣研修のほか、専門研修、通信研修の受講など
- [再掲]看護師研修を充実 11,098千円
- 職員提案・職員表彰事業 783千円
職員提案を予算に反映するとともに、優秀な提案について表彰。
また、仕事への取組み姿勢や成果の面で優秀な職員を表彰

教育研究の充実に向けて

- 学生のユビキタス環境を整備 8,000千円
各講義棟に学生が無線方式で学内LANやインターネットに接続できる環境を整備
- 授業評価、コンソーシアムの実施経費を計上 1,299千円
授業評価の拡充と単位互換制度の実施に向けた経費を計上
- 附属図書館運営経費を充実 7,594千円増額
(科学研究費間接経費を充当)
価格が高騰してきている電子ジャーナル等の利用を可能にするため、附属図書館運営経費を増額
- 総合研究施設運営費を充実 9,000千円増額
(科学研究費間接経費を充当)
総合研究施設の機器の管理・修繕等を図るため、総合研究施設運営費を充実
- 総合研究棟RI廃水処理施設貯留槽を取替 20,000千円
- 競争的資金獲得及び産学官連携の促進 5,425千円
グローバルCOEプログラム等競争的外部資金の獲得に向けた取組みの実施、産学官連携を推進するためシンポジウム等を開催
- 教育研究振興基金の創設 8,000千円(寄附金事務費を充当)
教育研究の基盤整備を図るため、基金を創設
- 医学科講座研究費 166,359千円
- 看護学科教員研究費 11,107千円

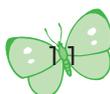
病院運営の合理化、経営改善の推進

- 院内物品管理委託(SPD)の導入 23,000千円
院内における診療材料物品の管理、配送等を業者委託して、院内物流を合理化
- 診療報酬請求の適正化 13,600千円
診療情報管理士により診療報酬請求(DPC、出来高)、電子カルテの記述等をチェック
- 未収金対策事業 7,335千円
未収金回収のための督促を定期的に変更し、回収が困難なものについては債権回収会社に回収を委託
- 医薬・診療材料費 9,761,211千円
- 医事委託費 224,318千円
- 医療用備品の整備 450,000千円

患者サービスの向上

- 総合周産期母子医療センター等の整備 406,281千円
総合周産期母子医療センターの暫定整備
(MFICU6床、同後方12床、NICU21床、同後方10床)
同センターの本格整備
(NICU後方20床追加) A棟・旧D病棟整備に向けた実施設計等
- 地域医療連携事業 7,546千円
地域医療連携事業を推進するためのシステム等を整備
- クレジットカード支払いへの対応 5,662千円
クレジットカードで入院・外来料金を支払うことができるようにするための経費

法人化



コンソーシアムと地域立脚型の教育

教育開発センター 教授 森田 孝夫

「コンソーシアム」とは本来は「共同事業体」を意味する言葉ですが、最近では教育の場で使われることが多くなっています。奈良県では県内の8大学が提携して「単位互換制度」を立ち上げており、平成20年度からは本学も参加しています。このカリキュラムは「コンソーシアム（自己研鑽）プログラム」というもので、学報Vol.22（医学教育シリーズ13）ですでに紹介させていただきました。これは医学科3年次の学生が他大学の一般教養科目を受講し、その取得単位を本学の単位とし認定するシステムです。

今年度の本学学生の他大学の科目への応募状況を紹介します。受講可能な科目として大学連合より295科目が提供されており、本学の101名の学生がのべ288科目（一人平均2.8科目）を受講することになりました。奈良の歴史・文化などの理解を深める奈良学、社会心理学・犯罪心理学などの心理学、スポーツ生理学・コーチング理論などスポーツを科学する科目などに人気が集まっています。その他、法律学、経営学、語学（韓国語・中国語など）など幅広い領域に応募しているようです。しかし、このコンソーシアムはあくまでも一般教養に限定してのコンソーシアムです。

さて、文部科学省は平成20年度に新たに「戦略的大学連携支援事業」を立ち上げました。これは、「国公立大学間の積極的な連携を推進し、各大学における教育研究資源を有効活用することにより、当該地域の知の拠点として教育研究水準のさらなる高度化、個性・特色の明確化、大学運営基盤の強化を図ること」を目的としています。

この事業に沿った例として、2010年度に関西に設立される「食の大学院」があります。これは、大阪府大、大阪市大、同志社大、関西大と関西の経済界が連携し、国の協力を受けて、「食」に関する高度で広範な知識と技術を備えた専門家を育てるという大学院の計画です。つまり、「食」に関する高度専門職の育成を目指した「専門教育分野でのコンソーシアム」であると考えられます。

また、この事業では大学間の連携のみならず、地域社会ニーズを踏まえた「地域の関係自治体等との連携によって地域貢献に資する取組」も推奨されています。つまり、他大学や地域の企業、そして地方自治体などと連携して高度専門職の教育を行っていくということです。大学が自学内ですべての教育を行うという「自己完結型の大学教育」は過去のものになりつつあるといたらい過ぎでしょうか。これからの大学は他大学や地域の企業、さらには地方自治体と連携して教育・研究の水準を上げることが求められています。

一方、医学教育の領域では「地域立脚型医学教育 community-based medical education」ということがいわれています。その背景には、疾患中心の生物医学的モデルから、生活者としての患者に向かい合う、家族や地域社会も視野に入れた患者中心の医療への移行があることは間違いありません。それに従って「教育の場」も病棟から外来、そして地域へと広がりを見せています。その現れとして、初期臨床研修では地域の診療所や保健所・福祉施設等での研修が必修とされ、保育園までも医師養成の場となってきました。

また、近年顕著となった医師の偏在、地域での医師不足などの状況を鑑みて、「地域に貢献できる医師」の養成が大きな課題となっています。これらの社会的ニーズは、医学部における入学試験制度やカリキュラムの変革を要求しています。本学においても平成20年度入試から「地域枠」、「推薦枠」が導入されました。そして、地域に貢献できる医師を養成するための6年一貫カリキュラムを開発し、導入することが求められています。そのための専門のスタッフ（兼任教員）を教育開発センターのなかに配置することが平成19年度の役員会で決定されました。地域社会と連携した教育システムを確立するために、教育開発センタースタッフ一同努力してまいります。ご助言・ご協力いただければ幸いです。

扁平上皮癌におけるHMGB1関連シグナル

分子病理学講座 助教 笹平 智則

わたしは頭頸部・食道扁平上皮癌の分子病理学的解析を研究テーマとしているが、本稿では主に頭頸部扁平上皮癌におけるHMGB1関連シグナルについて述べたい。

HMGB1は核クロマチンタンパクであり、本来DNAの立体構造の維持に重要な役割を担っている。しかし、能動分泌や細胞壊死により細胞外に放出されると、免疫グロブリンスーパーファミリーに属するmulti-ligand receptorであるRAGEとの相互作用によりNF- κ Bを活性化し、TNF- α 、IL-1、IL-6などを発現させることで炎症性サイトカインとして作用する。がんにおいても、RAGE-HMGB1系はMAPK、Rac1/Cdc42を介した細胞増殖能・運動能の亢進による浸潤・転移にも重要な役割を果たしている。

当講座ではこれまで胃癌・大腸癌・前立腺癌をはじめとした腺系癌でRAGE-HMGB1系を検討しており、RAGE-HMGB1系ががんの増殖・進展、宿主癌免疫機構の攪乱を生じることが明らかになっている。わたしは報告が少なく詳細が不明である扁平上皮癌におけるRAGE-HMGB1系の役割を解明するため、頭頸部扁平上皮癌材料を用いて免疫組織化学的にRAGE、HMGB1の発現を検討した。その結果、RAGE-HMGB1強発現症例ほど局所進展傾向が強く、また再発例も多くみられた。さらに多変量解析の結果、RAGEの強発現は独立した予後不良因子となることが判明した。しかし、他部位の腺系癌とは異なり頭頸部扁平上皮癌ではRAGE-HMGB1系が転移には関連していなかった。これらを実証すべく、さらなる検討を進めたところ、RAGE-HMGB1シグナルは、頭頸部扁平上皮癌ではVEGFを介した腫瘍血管新生の誘導により局所進展および再発をもたらすが、VEGF-Cは発現誘導されず腫瘍リンパ管新生には関与しないことが明らかとなった。このことはリンパ節転移が主たる転移経路である頭頸部扁平上皮癌において、RAGEが転移促進性に乏しい一因と考えられた。なおRAGE-HMGB1系は食道扁平上皮癌の進展にも関わることを見出し、現在、詳細な検討を加えているところである。

一方、HMGB1はMIAと結合することでもがんの進展を促進させる。MIAはメラノーマの培養上清から発見されたタンパクであるが、網羅的遺伝子発現解析法であるSAGEに基づいた検討により胃癌の有用な血清マーカーとなることが報告されている。また少数例だが乳癌、膵管癌、軟骨肉腫でもMIAが発現しているという報告もあるが、扁平上皮癌での役割は明らかではなかった。そこで口腔扁平上皮癌におけるMIAの機能を検討したところ、MIA強発現症例ほどHMGB1陽性率が高く、またリンパ節転移症例ほど原発巣でMIA-HMGB1を共発現していた。in vitroにおいても高転移株ほど高レベルのMIAのタンパク発現が認められた。口腔扁平上皮癌高転移株ではHMGB1によるRAGE活性化がNF κ B p65の核内移行を促進し、核内HMGB1とNF κ B p65がMIA promoter領域に結合することによりMIA発現を誘導していることが明らかとなった。さらにMIAはVEGF-C発現誘導を介した腫瘍リンパ管新生によりリンパ節転移を促進させることがわかり、有用なリンパ節転移予測マーカーとなるものと考えられた。MIAは低分子量の分泌タンパクであることより、血清ではなく唾液での測定が可能と考えられ低侵襲な検査による悪性度マーカーとして期待される。現在、MIA-ELISAによる検討を行なっている。

このようにHMGB1はRAGEとの相互作用により、がん細胞の増殖のみならずVEGFを介した腫瘍血管新生、およびMIA発現誘導によるVEGF-Cを介した腫瘍リンパ管新生を誘導する非常に興味深い分子である。将来的に、RAGE-HMGB1系を分子標的とした治療が頭頸部癌患者の予後向上に寄与することを期待している。現在得られている知見の臨床応用にはさらに多くの検討が必要であるが、頭頸部扁平上皮癌をはじめとしたがんの征圧に向けて努力したい。

研究室配属の感想

Norris Comprehensive Cancer Centerで体験した研究室配属 医学科 5年 広瀬 雅史

研究室配属実習として、3月4日から3週間、南カリフォルニア大学のKenneth Norris Jr. Comprehensive Cancer Centerで千原良友先生のご指導下に、DNA methylationについて学ぶことができました。

英語もろくに話せないまま実習に入りましたが、研究室のメンバーは優しくゆっくりと喋ってくれ、なんとかコミュニケーションがとれるようになりました。また、DNA methylationについても十分な知識がなく、最初はピンとこなかったのですが、詳しく説明していただき理解することができました。

実習としては、DNA methylationについて、細胞培養からはじまりDNAの抽出、Sequencing、Bisulfite処理、電気泳動、PCR、Methylight、Real-time PCR、メチル化DNAの解析・データ化と、ひと通り教えていただきました。

最初のほうは他のラボの方にも教えていただくことがありましたが、僕の英語がままたまらないのと、その方たちがお忙しいということで、なかなか先に進まなかったことが大変でした。しかし、初めて体験することばかりで戸惑いもありましたが、色々自分なりに考えてすることで非常に楽しく実験をすることができました。また、DNA methylationについては今まで全然知らなかったのですが、この実習を終えてみて、将来様々な分野で応用できるのではないかと感じました。泌尿器科や癌というカテゴリーを越えて何か発見できるかもしれないと思います。

日本の研究室がどのようなものか僕は知らないので比較できませんが、アメリカの研究室は色々な意味で自由な空気が流れており、研究がしやすい環境にあると感じました。僕も、もっと英語がしゃべられたらどれだけ楽しいかと非常に残念に思いました。しかし、その中でも千原先生の朝から晩までずっと研究している姿が印象的でした。研究をしに来ているのであって遊びにきているわけではないという姿勢をありありと感じました。

3週間アメリカで生活するのは大変な部分もありましたが、それ以上に楽しい思い出が残りました。ただの旅行と違って、目的を持って現地の人と話ができるというのはとてもいい経験になり、特にアメリカの医学生とも話せたのも貴重な体験になりました。

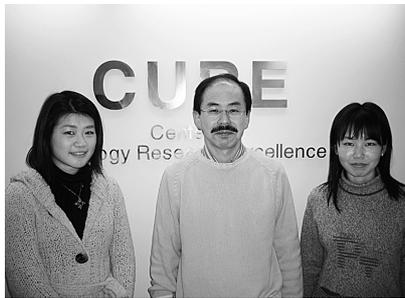
正直、僕はこの研究室配属実習に行くまで研究には全く興味がなかったのですが、この実習を通して研究に興味をわき、将来研究をしてみたいと思うようになりました。臨床だけやるよりも是非とも研究をやってみたいです。そして、できれば、将来アメリカやドイツに留学したいと思いました。

最後になりましたが、研究室配属実習でアメリカに行くという貴重な体験をさせてくださいました平尾教授、お忙しいにもかかわらず実習で丁寧にご指導していただき、色々とお世話をいただきました千原先生に、この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

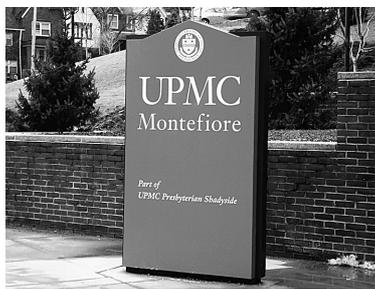
ピッツバーグ大学の泌尿器科研究室を訪ねて

医学科 5年 小谷 有希子

4年生の最後に設けられた研究室配属というカリキュラムで、ピッツバーグ大学の泌尿器科研究室を訪問し、排尿筋の神経伝達について勉強してきました。研修を終えた心境を一言で表現すると、リサーチマインドという言葉につきます。そもそも、これを養うことが研究室配属というカリキュラムの大きな目標であったことを実感しました。出発前、私はこの言葉の意味をきちんと理解できていませんでしたが、この研修を経て、自分なりにイメージをつかむことができたと思います。それは、あくなき探究心であり、発見に対するときめきであるといえます。しかし、そんなことは、言葉で言っても薄っぺらなもので、からだで感じて初めて本当に理解したことになることを身をもって体験しました。



研究室廊下にて 吉村教授と
(左から 小谷、吉村教授、大野さん)



UMPC Montefiore 正面
(研究室がある建物)



研究室廊下にて
松本研究員（奈良医大平成12年卒）と
(左から 大野さん、松本先生、小谷)

私にそういったときめきが訪れたのは、研究員の先生方から、実験に関する説明を受けているときでありました。ピッツバーグ大学の泌尿器科研究室は、膀胱をはじめとする下部尿路の排尿機構をテーマとし、ラットを使った動物実験を主に行っていました。一方で、細胞培養やパッチクランプ、分子生物学的な研究も行われており、いくつかの実験を並べていくと、一つのストーリーが見えてくることが判りました。そういうふうな予めデザインされていることもあれば、結果次第で組み合わせていくこともある。ただ、大きな研究目標というのがあって、それに向かって様々な手法を組み合わせるという、研究をデザインするという概念がみえたときに、私は大きな感動を覚えました。今まで大学

でも、分子生物学的実験を中心に、幾つかの古典的な手法の原理を学び、実践してきました。しかし、それは小さな手法であり、点に過ぎなかったことが判りました。これらを組み合わせ、設計していくことで、大きな研究という線であり、面に繋がっていくことを知りました。自分の中に解明したい大きなテーマがあって、一つずつ実験を重ね、線がみえたとき、次がこれで、その次がこれで、それで、それで…！と、きっと興奮が止まらないと思います。こんな気持ちでずっとリサーチマインドというのだと思います。

今はまだ、既知の情報を学ぶ身で、何を研究したいという目標がないので、半分は想像の世界ですが、しかし、医師になったときに、自分は医学者であるということを忘れず、このリサーチマインドをもって仕事ができたら、どんなに素晴らしいかと思っています。このような機会を与えてくださった泌尿器科の教授、研究室の教授、スタッフの方々をはじめ、全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。

(学務課)

平成20年度入試結果

| 区 | 分 | 募集人員 | 志願者数 (A) | 受験者数 | 合格者数 (B) | 追加合格者 数(Bの内数) | 入学者数 | 志願倍 率 (A)/(B) | 前年度 志願倍 率 |
|-------|-------|------|-------------|------|-------------|------------------|------|---------------------|-----------------|
| 医学科 | 推 薦 | 5 | 12 | 12 | 5 | 0 | 5 | 2.4 | — |
| | 前 期 | 65 | 236 | 220 | 66 | 1 | 65 | 3.6 | 4.2 |
| | 後期一般 | 20 | 160 | 74 | 20 | 0 | 20 | 8.0 | 9.1 |
| | 後期地域 | 10 | 57 | 21 | 10 | 0 | 10 | 5.7 | — |
| | 小 計 | 100 | 465 | 327 | 101 | 1 | 100 | 4.6 | 5.2 |
| 看護学科 | 編入学一般 | 5 | 42 | 40 | 22 | 18 | 4 | 1.9 | 2.1 |
| | 編入学地域 | 10 | 24 | 23 | 10 | 0 | 9 | 2.4 | — |
| | 推 薦 | 20 | 92 | 88 | 20 | 0 | 20 | 4.6 | 2.9 |
| | 前 期 | 40 | 172 | 170 | 41 | 1 | 40 | 4.2 | 1.8 |
| | 後 期 | 20 | 235 | 144 | 22 | 2 | 20 | 10.7 | 6.5 |
| | 小 計 | 95 | 565 | 465 | 115 | 21 | 93 | 4.9 | 3.0 |
| 医 学 部 | 合 計 | 195 | 1,030 | 792 | 216 | 22 | 193 | 4.8 | 4.0 |

平成19年度 学位授与の状況

次の26名に学位が授与されました。

本審査日 平成19年5月22日

- (甲) 武田 真幸 第二内科学
 (乙) 山本 亜弥 分子病理学
 築瀬 公嗣 第三内科学
 丸岡 真治 眼科学

本審査日 平成19年7月24日

- (甲) 甲斐 吉郎 第二内科学
 野見 武男 消化器機能制御医学
 葛城 麻実子 皮膚科学
 前田 雅彦 口腔外科学
 (乙) 齋藤 こずえ 神経内科学
 内本 和晃 消化器総合外科学
 佐本 憲宏 整形外科学

本審査日 平成20年1月22日

- (甲) 宇野 健司 細菌学
 水野 智寛 小児科学
 堀内 俊孝 麻酔科学
 (乙) 形岡 博史 神経内科学
 松本 壮平 消化器・総合外科学
 木佐貫 修 整形外科学

本審査日 平成20年3月6日

- (甲) 守屋 圭 分子・細胞再生医学
 吉本 宗平 第一内科学
 林 宏治 整形外科学
 岩田 正人 麻酔科学
 (乙) 伊豆 敦子 第一解剖学
 天野 信子 地域健康医学
 上田 重彦 第三内科学
 辻 佳彦 放射線腫瘍医学
 玉置 盛浩 口腔外科学



病棟紹介

A棟6階北 婦人科病棟



A棟6階北婦人科病棟は平成20年1月に5階南病棟から移転し、明るい病棟で気持ちも新たにスタートしています。

パワフルな師長・主任を中心に看護師の年齢層も幅広く、医師とも仲良く楽しく仕事の出来る職場です。

病床数は40床。入院患者数は年間約500人で手術療法・化学療法・放射線療法の治療をそれぞれ受けていらっしゃいます。回復される患者様、悪性疾患でターミナル期を迎える患者様、時には産科領域の患者様も入院され日々看護を通して学び得るものはたくさんあります。

特に女性の心理はデリケートなのでこれを傷つけない配慮が望めます。女性だからこそ共感でき細やかな配慮と心配りの出来る看護師を育む病棟です。

A棟4階南 小児科病棟



A棟4階南にある小児科病棟は、看護師総数19名です。スタッフ、医師とも仲良く明るい雰囲気です。

病床数は34床で、0～20歳までの患者さんが入院生活を送っています。日々の治療・検査などの様々な苦痛に耐えながら、家族とともに頑張っている患者さんたちの姿は、私たち看護師にも勇気を与えてくれます。業務以外でも、看護師が主体となって季節ごとにレクリエーションを開催し、手品やビデオ鑑賞会など患者さんたちの入院生活が少しでも楽しくなるように頑張っています。入院中、つらい思いをしている患者さんが笑顔で元気に退院していく姿をみると、とてもやりがいを感じます。

B棟4階 整形外科病棟



B棟4階は、病床数60床（50床）の整形外科病棟で、23名の明るく個性豊かなスタッフが、毎日和気あいあいと働いています。

代表的な疾患は、股関節・膝関節・足関節といった身体の各関節・脊椎・神経・骨・筋肉といった、頭部以外の様々な部位が治療の対象となります。手術を受けられる患者様が多く、術後ベッド上安静になる患者様や、四肢機能の障害で日常生活に何らかのサポートが必要となる患者様もおられます。

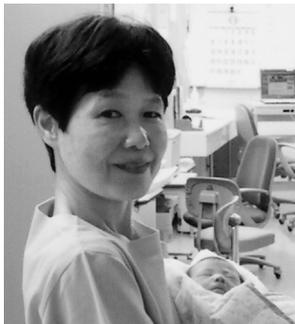
私たちスタッフは、患者様の日常生活行動をサポートしながら、回復に応じた看護を実践できるように日々がんばっています。

スタッフ同士、そして患者様との関係もよく、自然と笑顔が出てくる病棟です。

看護部から

助産師・平田幸子さん 第36回医療功労賞に選ばれる

看護副部長 池田 映子



困難な環境下や専門分野で、長年にわたって献身的に職務に励んで功績をあげた医療従事者等に贈られる、第36回医療功労賞（読売新聞社主催、厚生労働省など後援、エーザイ協賛）の県表彰を受賞された助産師・平田幸子さんをご紹介します。

平田さんは、昭和56年に助産師の免許を取得後、同年9月より産婦人科外来や病棟で勤務され、平成3年に主任に昇格、チームのまとめ役として、また後輩助産師や学生の教育指導にも熱心に取り組んでこられました。その間、昭和59年から2年間海外青年協力隊員として、アフリカ・リベリアに赴任、何もかも恵まれた日本とはほど遠い環境下での妊産婦や新生児の看護にあたった貴重な経験もされています。

同じ助産師として、また師長として11年間、平田さんとともに働いてきた私は、上司という立場ではありませんでしたが、真摯に妊産婦の看護にあたるまじめさやその姿勢を目の当たりにし、見習うべきことの多さにいつも感心しておりました。

厳しい環境下での妊産婦や新生児の手助けをするために、日本より何千Kmも離れたリベリアに赴任したことに、平田さんらしさが現れていると思います。

ややもすると、難しい横文字を使ったり、医療機器をそつなく使いこなしたりすることだけが優秀な助産師と勘違いされる昨今、ひたむきに陣痛で苦しんでいる妊婦の汗を拭き、腰をさすり、安心して分娩できるよう声をかけていたこと、どんなに忙しくても、笑顔を絶やすことなく同僚や学生にたいして丁寧な対応を怠らなかつたこと、病棟あてにいただいた患者さまからのお礼のたよりに、漏れなく平田さんへの感謝の言葉があり、何よりもそのことが私には嬉しかったことを覚えています。

目立たなくても、自分の信念にもとづいて、コツコツと陰日なたくまじめに取り組む姿勢、それこそが、この評価に繋がったのだらうと思います。

長年の労苦をねぎらうと共に、今後のさらなる活躍を期待いたします。

（編集委員注：池田副部長は、4月1日付けで県立三室病院看護部長として転出されました。）

附属病院から

NHK「あなたとエアロビック」の収録が行われました。

去る3月11日、NHK BS-2「あなたとエアロビック」の収録が本学体育館で行われました。

この番組は、エアロビックのインストラクターが、企業や学校、町の体育館などを訪ね、エアロビックを直接指導して、いっしょに楽しむ視聴者参加番組です。

今回は、附属病院のスタッフを中心に学生も参加し、病院で勤務する職員のためにアレンジされたエアロビックに汗を流しました。

放送は、5月4日（日）BS-2で午前7時40分～8時04分（再放送:5月9日（金）午前9時～9時24分）の予定です。皆さん是非ご覧ください。



病院長はじめ約70名が参加



インタビューに答える榊病院長



エアロビックを指導するインストラクター

車椅子の寄贈を受けました。

この度、国際ゾンタ奈良万葉ゾンタクラブ（会長 高瀬善子氏）から車椅子3台の寄贈を受けました。

国際ゾンタ：国際ゾンタは1919年にアメリカニューヨーク州にて職業を持つ女性達によって創立された如何なる党派、宗派にも属さない社会奉仕団体です。現在はシカゴに本部を置き、世界71カ国1300クラブ、約36000人の会員が女性の地位向上を目指した地域奉仕や国際奉仕のために、ボランティア活動をしています。



チェンマイ大学との学術交流について

(学務課)

平成20年2月13日～2月20日までの8日間、タイのチェンマイ大学医学部から4名の学生が来学し、皮膚科学、第三内科学、麻酔科学において研究を行うとともに、本学学生とも多岐にわたる交流がなされました。関係教室の先生方、本当にありがとうございました。また、本学からは東野教授引率により4名の学生が3月30日～4月8日まで、チェンマイ大学を訪れました。



国際看護論海外研修

—タイ・チェンマイ大学看護学部へ—

国際化が進む中、日本においても外国の方を看護する機会は増えてきました。また、これからは日本国外で看護実践を展開する人も増えていくことでしょう。これからの保健医療へ従事する者には異文化への理解やグローバルな視野で健康課題を考えていく力は大変重要となります。そうした社会の動向に日本の看護教育も国際看護学の充実に動き始めました。当看護学科の国際看護論後半に実施される海外研修は、学内での国際看護の学びを深めるため、タイ王国チェンマイ大学看護学部との協働で実施されます。気候や文化、政治経済的背景も大きく異なるタイにおいて、現地の健康課題と保健政策、看護教育や医療システムなどの実際に触れ、国際看護を「体感」します。



チェンマイ大学ニュースレターに看護学科訪問の様子が掲載されました

(研究推進課)

平成19年度 中島佐一学術研究奨励賞決定！

奈良県立医科大学において医学の学術研究に優れた業績をあげた若手教員を対象として募集したところ6件の応募があり、2月20日の選考委員会で審査した結果、次の2名の方が受賞の栄冠に輝きました。

| 所属 | 職名 | 氏名 | 研究テーマ |
|-------------------|-----|-------|--------------------------------|
| 放射線医学 (中央放射線部) | 准教授 | 田岡 俊昭 | MRIによる脳機能の描出と臨床への応用 |
| 第一内科学 | 助教 | 中谷 公彦 | 腎疾患およびそれに伴う心血管病変の発症・進展機構に関する研究 |

平成20年度の奈良医学会総会において授賞式を行い、併せて受賞した研究テーマの講演会を予定しております。日程が決まり次第、お知らせいたしますので、ご聴講をよろしくお願いいたします。

住居医学研究会のお知らせ

| | 開催日 | 演者 | 主題 | 会場 |
|------|-------|---|-------------------|-------------|
| 第17回 | 5月16日 | 独立行政法人国立病院機構相模原病院臨床研究センター 特別研究員 安枝 浩 | 室内環境アレルゲンとアレルギー疾患 | 基礎医学校舎5階会議室 |

Report

承認された規程、委員会名簿等については、随時、ホームページにて公開しています。

学内ホームページURL（閲覧は学内のみ可能）

top.naramed-u.ac.jp/ → 「規程・名簿タブ」

*公開ホームページに掲載

www.naramed-u.ac.jp/aff/johokoukai/

（総務課）

役員会及び教育研究審議会の報告

役員会（1月9日）

- 1 副学長候補者推薦要領を制定、被推薦者あて推薦依頼を実施
- 2 医学科教授選考に関する規程及び同申合せを改正、1月9日付けで施行

役員会（1月23日）

- 1 看護師確保対策について検討（大阪、三重及び京都も対象として広告を実施）
- 2 副学長候補者を承認
- 3 部局長選考のスケジュールを制定
- 4 理学療法士1名の採用を決定

役員会（1月28日）

- 1 副学長（医学部長）として細菌学・喜多教授を、副学長（附属病院長）として脳神経外科学・榊教授を決定

役員会（1月30日）

- 1 個人情報紛失に伴う処分の検討を審査機関（教育研究審議、賞罰審査委員会）に附議
- 2 看護師6名の採用を決定
- 3 夜間看護手当の改善を決定

役員会（2月6日）

- 1 看護師確保対策本部の設置を決定
- 2 附属図書館長、研究部長及び看護学科長推薦要領を制定、教授会に提案

教育研究審議会（2月7日）

- 1 「奈良県立医科大学教育研究振興基金」の設置を決定（※1月30日役員会にて確認済）
- 2 動物実験管理規程を改正、4月1日付けで施行
- 3 平成20年度予算の最終調整について、教育研究審議会として承認、経営審議会に提案
- 4 3月1日付け、4月1日付け教員人事を承認
- 5 看護学科長職の設置に伴う業務分掌を承認
- 6 修士課程設置に伴う規程の整備を決定、2月7日付けで改正または制定、4月1日付けで施行
 - (1) 大学院学則の一部改正
 - (2) 大学院医学研究科博士課程委員会規程の一部改正
 - (3) 大学院医学研究科修士課程委員会規程の制定
 - (4) 大学院博士課程運営委員会規程の一部改正
 - (5) 大学院修士課程運営委員会規程の制定（※2～6、2月6日役員会にて確認済）
- 7 看護学科学事計画を承認
- 8 先端医科学研究機構の研究単位を決定
坪井教授は「脳神経システム医科学」
中川教授は「循環器システム医科学」
（※日本語表記については、3つの研究単位が確定した時点で改めて見直すこと）
- 9 職員の懲戒処分について審議し、役員会へ報告

役員会（2月13日）

- 1 看護学科長職の設置に伴う規程の整備を決定、4月1日付けで施行
 - (1) 学科教授会議規程の一部改正
 - (2) 看護学科学務委員会規程の一部改正
 - (3) 看護学入試委員会規程の一部改正
 - (4) 看護教育協議会規程の一部改正
- 2 個人情報の紛失に係る職員の懲戒処分を決定

役員会（2月20日）

- 1 病棟の再配置を決定
- 2 夜間看護手当の改正に係る職員給与規程について、2月20日付けで改正・施行、2月1日から適用

役員会（2月27日）

- 1 医療安全管理指針及び医療安全推進室設置要綱を改正、2月27日付けで施行
- 2 平成20年度の組織配置を決定
- 3 看護師5名の採用を決定

教育研究審議会（2月28日）

- 1 コンソーシアムに係る奈良県内単位互換協定書、単位互換に関する覚書の締結を決定
- 2 学則の改正を決定、4月1日から施行（ただし、第38条第1項及び第3項は2月28日付けで施行）
- 3 特別聴講学生規程を制定、2月28日付けで施行（※1～3、2月13日役員会にて確認済）
- 4 機関リポジトリ設置のための機関リポジトリ設置要綱及び機関リポジトリ運用指針を制定、2月28日付けで施行
- 5 4月1日付け教員人事を決定
- 6 特任教員規程を制定、2月28日付けで施行
- 7 名誉教授規程を改正、2月28日付けで施行
- 8 各教育部長の推薦要領を制定、各教育協議会に推薦を求める（※4～8、2月27日役員会にて確認済）
- 9 平成20年度年度計画（案）について、教育研究審議会として承認、経営審議会に提案
- 10 総合周産期医療センターの運営について、教授会及び病院運営協議会においても説明を行う
- 11 教育研究審議会としての附属図書館長、研究部長及び看護学科長を承認、役員会へ報告

役員会（2月28日）

- 1 附属図書館長として泌尿器科学・平尾教授、研究部長として化学・大崎教授、看護学科長として病態医学・飯田教授を決定

役員会（3月5日）

- 1 料金等規程を改正（修士課程入学科）、3月5日付けで施行

役員会（3月12日）

- 1 住居医学講座に特任教員（教授）の配置を決定
- 2 料金等規程を改正（看護師実習受入料）、4月1日付けで施行

役員会（3月19日）

- 1 附属病院規程を改正、4月1日付けで施行
- 2 腫瘍センター運営委員会規程及びがん化学療法プロトコール委員会規程を制定、4月1日付けで施行
- 3 附属病院児童虐待防止委員会設置要綱を制定、4月1日付けで施行
- 4 平成21年度の卒後臨床研修生の募集定員を80名と決定

教育研究審議会（3月21日）

- 1 吉田前学長への名誉教授称号の授与を決定
- 2 吉田前学長を住居医学特任教授に選任することを決定
- 3 客員教授の更新を決定
- 4 4月1日付け教員人事を決定
- 5 特別研究員（ポスドク）の採用を決定
- 6 麻酔科学・瓦口至孝助教の海外留学を承認
- 7 臨床教授の選考を決定（新規14名・更新71名）（※3月19日役員会にて確認済）

役員会（3月21日）

- 1 看護学科臨床病態医学教授として、濱田薫氏を決定
- 2 学則を改正、文部科学省へ届出
- 3 一般教育部長として生物学・大西教授、基礎教育部長として法医学・羽竹教授、臨床教育部長として麻酔科学・古家教授、看護教育部長として母性看護・助産学・脇田教授を決定

役員会（3月26日）

- 1 職員給与規程を改正、4月1日付けで施行
- 2 職員旅費規程を改正、4月1日付けで施行
- 3 職員退職手当規程を改正、4月1日付けで施行
- 4 料金等規程を改正（土地貸付料等）、4月1日付けで施行
- 5 看護師3名の採用を決定

携帯電話の使用エリアを設けました。

(附属病院)

当病院では、医療用電子機器等への影響を考慮し、携帯電話の電源をお切りいただくようお願いしておりました。しかし、総務省などが発表している医療機器等への影響調査結果や、携帯電話の普及により通信手段も変化していることから、患者様の利便性を高めるため、平成20年4月から、一定の条件の下で携帯電話及びPHSの使用エリアを設けることにしました。

携帯電話を使用できる場所は右記のとおりです。

| 携帯電話使用エリア（携帯電話を使用できる場所） | | 表 示 | |
|-------------------------|--------------------------------------|--|---|
| 外 来 | 1階 | <ul style="list-style-type: none"> 正面玄関風除室 北側夜間救急玄関付近 高度救命救急センター待合室 南玄関付近自動販売機コーナー | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">携帯電話使用エリア</div>  <p>携帯電話はこちらで使用してください。</p> |
| | 2階 | <ul style="list-style-type: none"> パンフレットコーナー（正面玄関吹き抜け2階部分） B C棟通路の南端の窓付近 | |
| 病 棟 | デイルーム、面会室、家族控室、1人用個室、一般の大部屋（メールのみ可能） | | |

※ 各病棟の特殊性により、診療科部長が、使用エリア、使用時間などを病棟ごとに定める。

‘ナースのリフレッシュルーム’開設

(精神看護学領域)

平成20年1月より、看護学科精神看護学領域の教職員が「ナースのリフレッシュルーム」を開設しました。このルームは、医大附属病院で働いている看護師が、働く中で体験されたどんな思いも受け止め、働くことの意味を見出していけるようにサポートすることを目的として開設しました。

看護学科で精神看護学を担当している教員は、看護者のメンタルヘルスやストレスマネジメントについても研究をしてきましたので、この場を利用していただいてリフレッシュし、新たな気持ちで看護の仕事に向き合ってもらいたいと考えております。

特に、新しく医大附属病院で仕事を始められたばかりの方、希望する病棟配置ではなかった方、職場環境になじめずに一人で悶々とされていらっしゃる方などに対して、お手伝いができるのではないかと思います。

どうぞお気軽にご活用ください。



左より、木村、佐伯、上平

看護学科 精神看護学担当教員

佐伯恵子 saekeiko@naramed-u.ac.jp, 0744-29-8949

上平悦子 euehira@naramed-u.ac.jp, 0744-22-3051 (2747)

木村洋子 ykimura@naramed-u.ac.jp, 0744-22-3051 (2781)

医学部看護学科第1回卒業研究発表会開催!!

(看護学科)

医学部看護学科 第1回卒業研究発表会が1月9日(水)、看護学校舎において開催されました。

卒業研究発表は4年生が対象となります。

卒業研究の目的は、さまざまな健康現象に対して、看護実践に結びつく方策を導くために必要な創造的・科学的に探求する能力を養成することであり、その目標として、研究を通じて、看護実践を向上させる姿勢と研究的態度や理論的な思考力を養うこと、また、研究のプロセスを踏みながら、論文または発表会としてまとめ、自己表現力および適切な文章表現力を養うことを目指しています。

今回行なわれた卒業研究発表の演題数は80題で、主に文献研究、調査研究、事例研究でした。発表形式はポスターおよび口演によるもので、看護学生は相互に研究成果を共有し、看護の発展に寄与する研究の視点を深めることができました。



発表会の様子



下ツ道

(編集後記)

平成20年度のスタートです。吉岡新学長のもと、新たな部局長体制で出発です。平成13年から本学を導いてこられた吉田前学長が、着任後まず発案されたのがこの学報です。発刊から満6年となりました。その間、大学院の再編、看護学科の開設、新病棟のオープン、そして法人化と、様々な変化がありました。編集後記のコラム名である「下ツ道」は、本学に隣接する古代幹線の名前です。これからもひとつの道をまっすぐに進みたいものです。

掲載希望の記事等については、各編集委員までお知らせください。

- 山下 勝幸 (生 理 学 第 一)
 - 大西 健 (生 物 学)
 - 粕田 承吾 (法 医 学)
 - 植村 正人 (内 科 学 第 三)
 - 中島小乃美 (成 人 看 護 学)
 - 澤 清美 (看 護 部)
 - 福留 隆二 (研 究 推 進 課)
 - 芳倉 亮 (学 務 課)
 - 北村 好伸 (病 院 管 理 課)
 - 鷹野 覚 (総 務 課)
- (○印は委員長)